おひさま保育園　自己評価表

２０２１年度

	今年度の活動	評価・反省　課題
施設管理	開園して２４年目を迎え、老朽化している設備・備品等が複数確認できたため、ホール床暖房・園庭水回り・外トイレの改修工事、スチームコンベクションの買替などを実施した。予算の関係上も踏まえ、その他のヵ所については、次年度計画や中長期計画に反映させ、計画的に実施できるようにする。施錠やネットランチャー等の防犯対策に講じることができた。	老朽化に伴い、年々修繕の必要な場所が見つかっている。子どもたちの生活を最優先に考えながら、計画的に施設管理ができるようにしていきたい。
人事管理	前任の園長の人事異動に伴い、新園長が就任する。新たな組織づくりのため、それぞれの役割を明確にし、体制構築に努める。豊中地域の園と連携・交流を積極的に行い、組織運営を共に高め合うことができた。また、法人内の事業拡大に向け、新人、及び異動職員を受け入れ、人材育成を図る。	管理職、主任、専門リーダー等の職務を明確にし、それぞれが役割を遂行できるようにする。引き続き豊中地域で連携を図り、組織運営強化と人材育成に努めていく。
保護者対応	コロナ禍で保護者同士がつながる機会が少なくなっている。だからこそ、日々の保育や行事等の在り方について、保護者会と共に協議しながら考え合う関係を大切にしてきた。コロナについての不安や悩みも、豊中市の保健所長に来ていただき、共に学習会を行い、「科学的な知見をもとに冷静に行動する」ことを共有する場を持った。要支援家庭に対しては、他機関とのネットワークづくりに努めてきた。	保護者の生活背景に目を向ける力を養い、想像力を持った対応ができるようにしていく。また、懇談会や親睦会など、保護者同士が集う場面を通して、関係を紡いでいけるように働きかけていく。
健康及び安全	新型コロナウイルスと付き合いながらの一年になった。特にオミクロン株の影響は大きく、年度末の３月は臨時休園やクラス閉鎖の対応に追われた。子どもたちのマスクについては、発達・健康上、一律に着用する対応は行っていない。ただし、必要場面においての着用は促す（園外保育。クッキング等）。事故による受診件数は８件。転倒時に手が付けないことが起因した、口周りのケガが多かった。	専門家の見識をもとに、科学的に冷静に対応することができた。今後も正しい知見をもとに、感染予防と子どもたちの生活を両立させていく。定期的に（ヒヤリハット・インシデントアクシデント）事故分析を行い、危機管理に対する意識を高めていく。
小学校・地域連携	卒園児ボランティアの受け入れは、感染防止の観点から人数を制限して実施した。保護者のニーズより、夏期はコロナ禍で行き場のない小学生の受け入れも行った（５日間）。また、「おひさまの家」として、学童保育後の子どもたちの生活保障と交流の場として、毎日５名程受け入れている。小学校との連携では、運動会、リズム参観などの大きな行事の際、校庭や体育館をお借りすることができた。就学前の見学等は、今年度もコロナの影響に伴い、見送りになった。	幼保こ小の先生と繋がりをつくり、連携を深めていく。特に民間保育園との交流を図り、子ども同士の交流や学習会、園見学を実施していく。小学校に行く機会を通して、就学に向けての期待や見通しにつなげていく。
保育の質の向上	研究者（長瀬先生・杉山先生）を招いて園内研修を実施し、保育実践を学ぶ機会をつくってきた。外部研修では、リモート研修が主流と状況の中、気軽に参加できるメリットを有効活用し、積極的に学ぶ場を保障してきた。法人研修は、今年度も一堂を介して実施することはできなかったが、リモートを使用し、各園の実践交流や「子どもの権利擁護」についての学習会を行った。また、豊中地域として職員と子どもの交流を行い、法人内で共に高め合う関係を構築することができてきた。	職員のニーズや課題に応じた研修を実施し、保育実践力を身につけていく。キャリアアップ研修の対象者については、４分野の受講を目指していく。乳幼児期の性教育について理解を深め、園内で性教育指導が行えるようにする。
地域との関わり	緊急事態宣言やまん延防止措置の発令時には、地域活動を停止せざるを得なかったが、その期間以外は地域活動を再開することができた。社協と連携をし、独居老人のお弁当配布に伴う、場所の提供もはじまった。地域の拠点として、またコロナ禍の見守りとしても新たな役割を果たしてきた。配食サービスも数回実施することができた。	おひさまっこの３階を地域活動の場として位置付け、幅広く場所の提供を行う。また、積極的に地域活動にも参加し、ニーズや状況の把握に努める。自治会にも顔を出し、つながりをつくっていく。
その他	現社会の生活様式の変化やコロナ禍の影響により、子どもたちの身体の育ちが弱くなってきている。保育の中の体育的課題についても、やりきるということが難しくなってきている。	子どもたちの身体の育ちについて、背景や原因に目を向けて、働きかけができるようになる。体育指導についても学んでいく。

２０２２年３月記載